

# 第4回 大和高田市内小規模企業景況調査

(平成29年11-12月期)

大和高田商工会議所

## <本調査の概要>

大和高田商工会議所加盟の小規模企業について、製造業、商業、サービス業、建設業の業種別に業況に関するアンケートを実施し、直近2か月間の実績、及びその後の2か月間の予測を調査したもの。

業況については、「DI (diffusion index)」として指数化し判断している。

■「DI」とは、アンケート結果の程度を指数化したもので、質問に対して「プラス(良い、増加、過剰等)」と回答した企業割合から「マイナス(悪い、減少、不足等)」と回答した企業割合を差し引きした指数。

■【本調査で当期とは「11~12月」、前期とは「9-10月」、来期とは「30年1~2月」の各2か月間を示す。】

## <調査結果のポイント>

### (1) 業況判断のDI・・・商業は対前年同期比改善も他の業種で悪化

前年同期比でみた当期(11~12月期)の業況判断DIは低調で推移。業種別に前回調査時(9~10月期)の前年同期比DIと比較すると、商業で改善、他は悪化ないし横ばいとなった。

対前期(9~10月期)比較でみた当期の動きは、製造業、商業で改善、サービス業、建設業は悪化した。また、来期(平成30年1~3月期)については、製造業、商業で悪化を見込む企業が増え、サービス業も厳しさが続く。

### (2) 売上に関するDI・・・商業、サービス業で対前年比改善はみられるが来期は不安定

製造業は原材料価格の上昇を反映して売上単価は上昇したが数量の減少により売上額は減少。商業は、前回調査時との比較では、前年同期比で改善したものの前期比で悪化し、さらに来期も悪化見込み。

サービス業の今期は、前回調査時との比較では、前年同期比、前期比とも低水準にあるが改善。ただ、来期は改善が続かない見込。建設業は、変動が大きく、今期は前年同期比、前期比とも悪化。

### (3) 原価・コストのDI・・・各業種とも仕入単価の上昇は落ち着くものの高止まりの状況

商業は仕入単価の対前年同期比での上昇が続き、サービス業も高止まりで採算は厳しい状況。製造業では、仕入単価の上昇が一服も高止まりで採算の改善は見られない。建設業も、仕入単価は高止まり。

### (4) 補助金等の支援施策の活用状況について(トピックス)

補助金等の支援施策の情報経路は、商工会議所や金融機関など身近な経路が中心で、受動的な情報入手に偏り、官公庁等のホームページから積極的に情報取得する動きはほとんど見えない。

支援施策の申請・利用についての問題点や困った点は、「支援施策の情報が入ってこない」とする回答が最も多い。続いて、「補助・支援条件で求められるレベルが高い」という回答が各業種で高水準となっている。利用したい・利用できたら良い支援施策としては、資金や収益に直接的に恩恵のある補助金や減税が最も多い

## <調査要領>

### ■対象事業所:

大和高田商工会議所加盟の事業者のうち、国の小規模事業者定義に従い、製造・建設業は20人以下、商業・サービス業は5人以下を抽出。

■調査時期: 平成29年10月上旬

■調査方法: 郵送法による

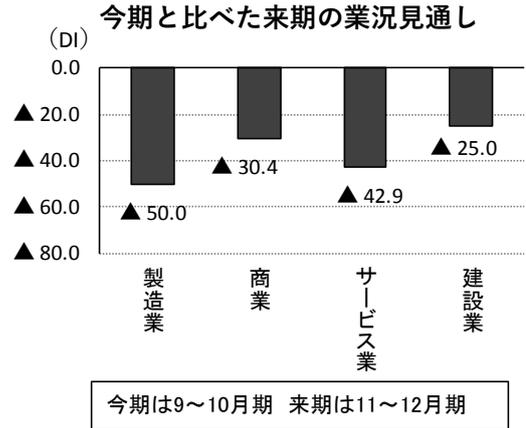
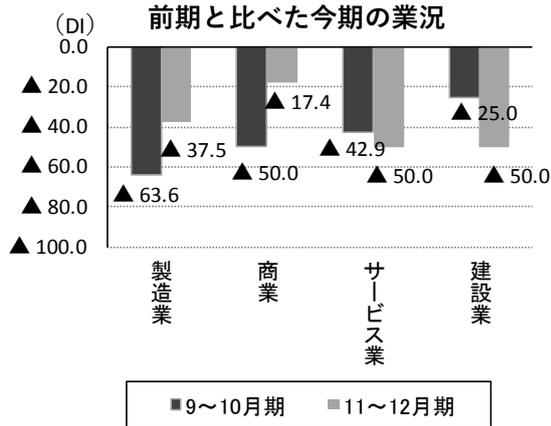
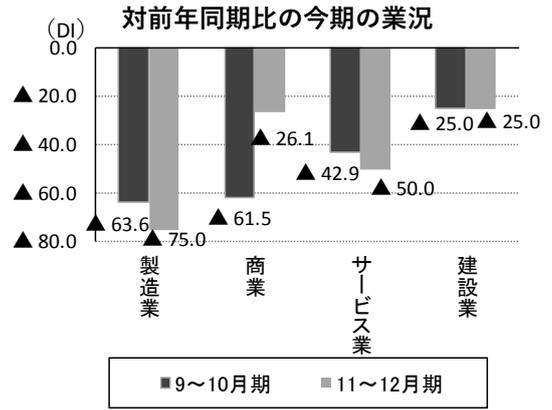
	調査対象 事業者数	有効回答 事業者数	有効回答率
製 造 業	33	8	24.2%
商 業	75	23	30.7%
サ ー ビ ス 業	89	12	13.5%
建 設 業	33	4	12.1%
合 計	230	47	20.4%

## (1) 今期の業況

前年同期比でみた当期（11～12月期）の業況判断D Iは、製造業▲75.0、商業▲26.1、サービス業▲50.0、建設業▲25.0となり、前回調査時（9～10月期）の同D Iとの比較では、商業で改善、他は悪化ないし横ばいとなった。

前期（9～10月期）と比較した直近の推移は、製造業、商業で改善、サービス業、建設業は悪化した。

来期の見込については、製造業、商業で悪化を見込む企業が増え、サービス業も厳しさが続く。



## (2) 補助金等の支援施策の活用状況について（トピックス）

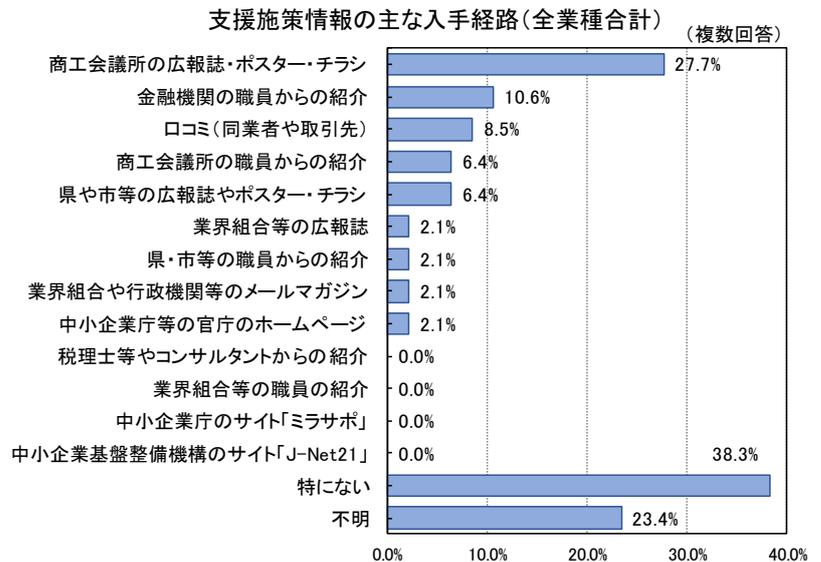
### < 施策情報の主な入手経路 >

補助金等の支援施策についての情報は、日ごろから密接な関係にある「商工会議所の広報誌・ポスター・チラシ」が最も多く、約3割に上っている。また、事業の現状を良く知り、現状に即した紹介をしてくれる、金融機関や商工会議所の職員といった人的な経路が次に多いものとなっている。

ただ、あくまで受動的な入手が多く、官公庁等のホームページから積極的に情報取得する動きはほとんど見えない。近年、補助金等の支援施策は、官公庁や産業支援機関等から多様な目的のために数多く準備されて、ホームページ等で募集内容が告知されている。

支援を受けたい目的が明確であれば、中小企業庁のサイトである「ミラサポ」などで支援情報目的別に検索すれば適切な施策が見出される。

しかし、支援施策があるからそれに即した事業を行うとなれば本末転倒であり失敗の可能性も高い。本来は、企業が経営計画を策定し、その円滑な実現に向けて利用すべきものと言える。



### <支援施策の申請・利用についての問題点や困った点>

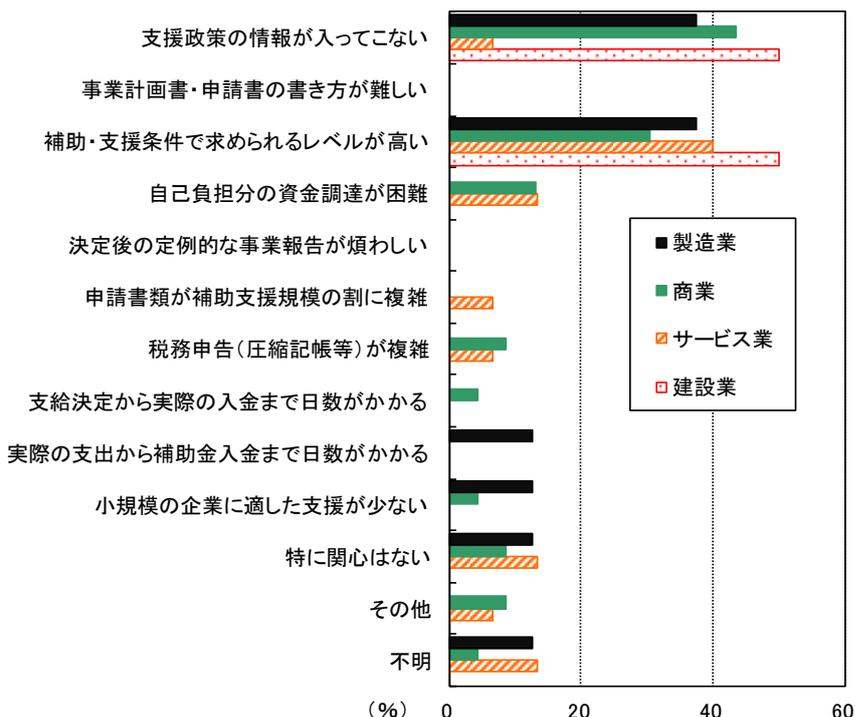
補助金他の支援施策の問題点や困った点については、「支援施策の情報が入ってこない」とする回答が、製造業、商業、建設業で最も多い。ただ、先項でみたように、受動的な情報入手経路への依存が高く、官公庁や産業支援機関等から多様な支援施策が打ち出されているにもかかわらず、ホームページ等から積極的に情報取得する動きが見えないことも大きな要因といえる。

続いて、「補助・支援条件で求められるレベルが高い」という回答が各業種で高水準となっている。多額の設備や研究開発の投資が必要となりリスク負担も高い、あるいは高度で専門的な知識・技術・ノウハウが求められるとなれば、小規模企業においては申請がためられるものとみられる。

ただ近年は、小規模企業が多い地域産業を振興する支援施策も多く、企業における「強み」の発見、しっかりとした「経営計画」の策定により、積極的に支援施策を探すことで、新しい事業展開を行い易くなっている

その他では、自己資金の問題がある。商業、サービス業では「自己負担分の資金調達が困難」とする指摘が多く、また、製造業では「実際の支出から補助金入金までの日数がかかる」とする指摘が多い。

支援施策の申請・利用についての問題点や困った点 (複数回答)



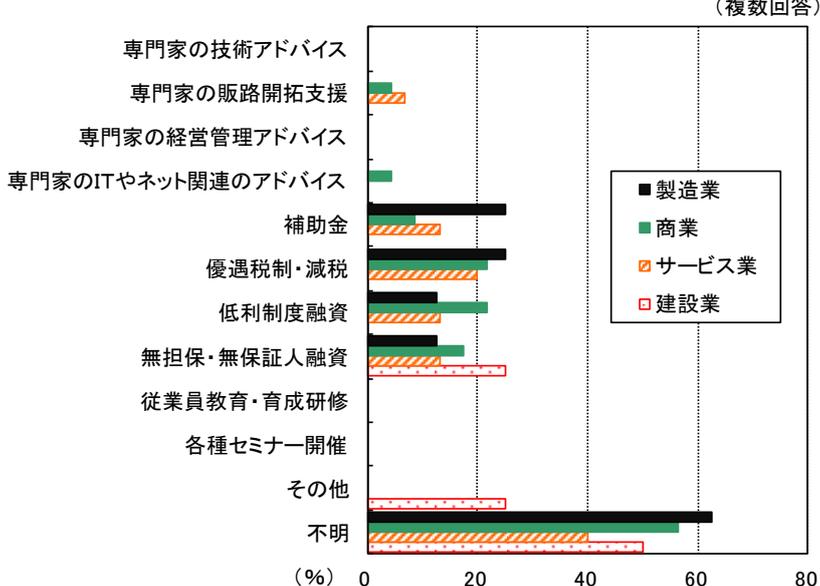
### <利用したい・利用できたら良い支援施策>

利用したい・利用できたら良い支援施策としては、資金や収益に直接的に恩恵のある補助金や減税が最も多い。

続いて、「低利制度融資」「無担保・無保証人融資」への要望が強い。

その一方で、経営指導、技術や手法のアドバイス等についてはほとんど見られず、経営改善・改革に対する意欲の低さの表れとも考えられる。

利用したい・利用できたら良い支援施策 (複数回答)



## <近年注目される補助金についての認知度>

近年、広い範囲の業種を対象とし、また、支援内容についても、事業承継や経営の維持・改善・改革といった重要性の高い事業を対象とした補助金が種々創設されている。

その代表的なもので、申請・利用が活発に行われている補助金として、

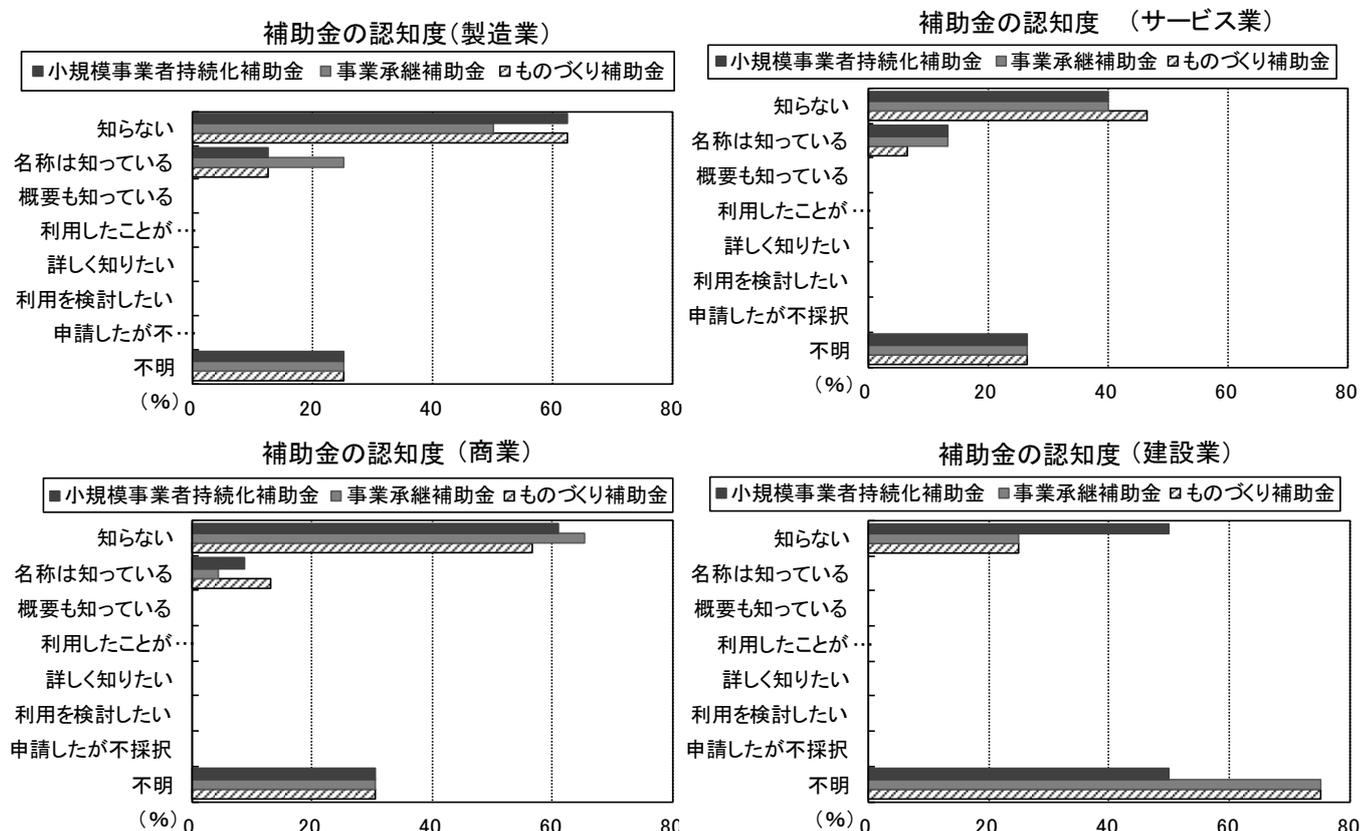
- 小規模事業者が比較的少資金で、販路開拓や新たな販促により持続的発展に取り組むことを支援する「小規模事業者持続化補助金」
- 事業承継を契機とした経営革新等を支援する「事業承継補助金」
- 事業の高度化・生産性向上を支援する「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援事業（ものづくり補助金）」

があるが、これらの補助金がどの程度認知されているかを調査した。（調査時点で今年度実施が未確定の補助金も含む）

各業種とも、どの補助金についても「知らない」とする回答が最も多く、認識されていない度合いは「不明」を含めると 100%近くになる業種もあり、後は、「名前知っている」とする回答が 20%に満たない水準で有る程度となっている。

少子高齢化の進展と地方の人口減少、後継者の不在、産業のグローバル化による国際競争の激化と高度化、生産性向上の重要化といった、現在直面している大きな社会的問題点に対応した補助金であるが、そういった大きな問題点に対する認識不足というよりも、一種のあきらめともいえるべきものが大きな要因とも考えられる。

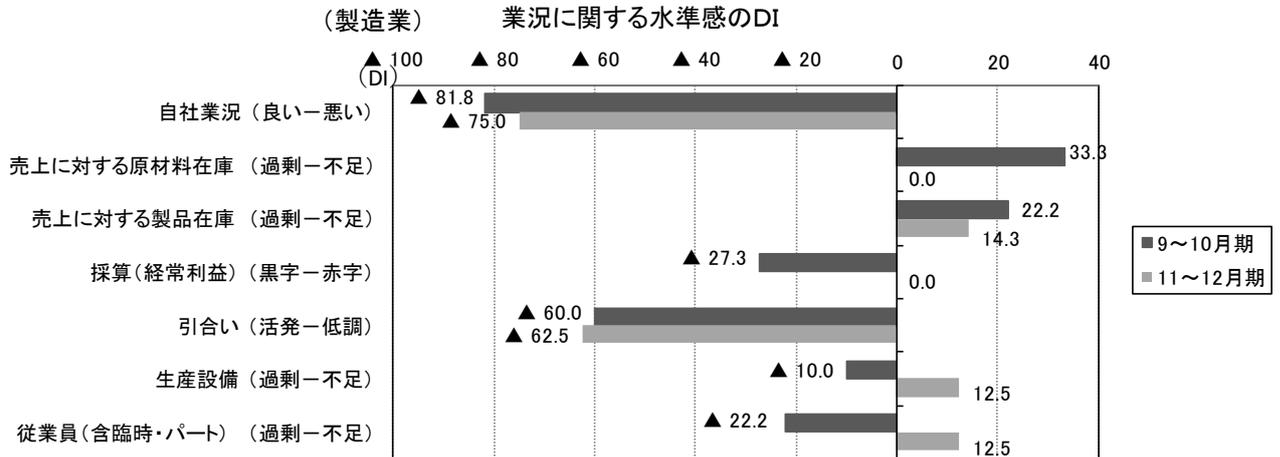
そのため、自社の存在意義や強みの認識と、しっかりとした「経営計画」の策定から支援機関のアドバイスが必要とされており、さらに、積極的に支援施策を探すことで、リスクを抑えながら新しい事業展開を行い易くする支援が求められていると言える。



## ■ 製造業小規模企業の景況

### (1) 業況に関する水準感 (過去との比較ではなく、今期の業績の水準についての調査)

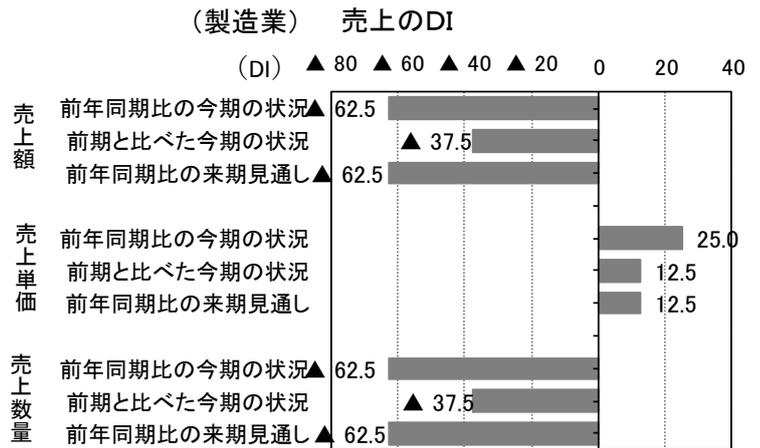
自社業況は悪いとする割合が大きく超過し前回調査とほぼ同水準。季節性の高い冬物製品が動き在庫は例年並み、採算も改善がみられる。ただ、引き合いは低調であり、設備と人員の過剰感がみられる。



### (2) 売上のDI

今期の売上関連のDIは、最近の原材料価格の上昇を反映して売上単価は上昇したが数量は減少していることから売上額は減少と、厳しい状況の続く企業の割合が高い。

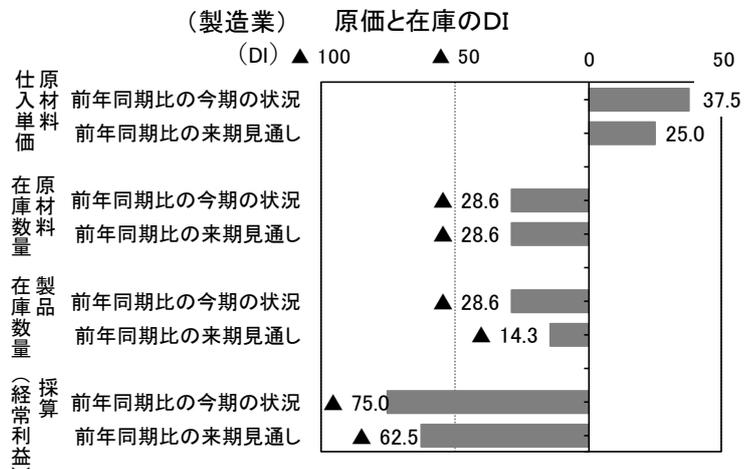
そのため、業況 (景況感) は依然として厳しい状況が続くが、次項でみるように、原材料価格やコストの上昇が売上関連の改善を上回っているものと考えられる。



### (3) 原価と在庫のDI

今期の原材料仕入単価は前年同期比のDI (上昇-低下) が 37.5 と前回調査とほぼ横ばいで、上昇の動きは続く。また、冬物季節製品の荷動きにより原材料、製品とも在庫の減少がみられる。

採算 (経常利益) は、原材料仕入単価上昇が続く中で、前回調査時よりも悪化し、また、来期にかけても厳しい状況にある。

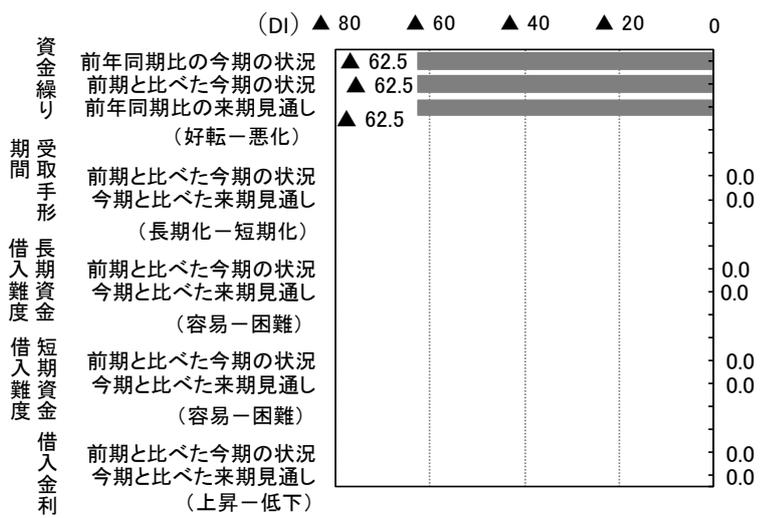


#### (4) 資金調達を巡るDI

売上額の改善が見られず、仕入単価は高止まりとなる中、在庫の減少が資金繰りの改善に結びつきにくく、さらに、年末資金需要期を迎え資金繰りは前回調査よりやや悪化した。

借入の難度については、長期資金借入、短期資金借入とも前回調査まではやや難度が上がっていたが、今回は落ち着いた。借入金利は0金融の超緩和政策が続き、大きな変化はみられない。

(製造業) 資金調達を巡るDI

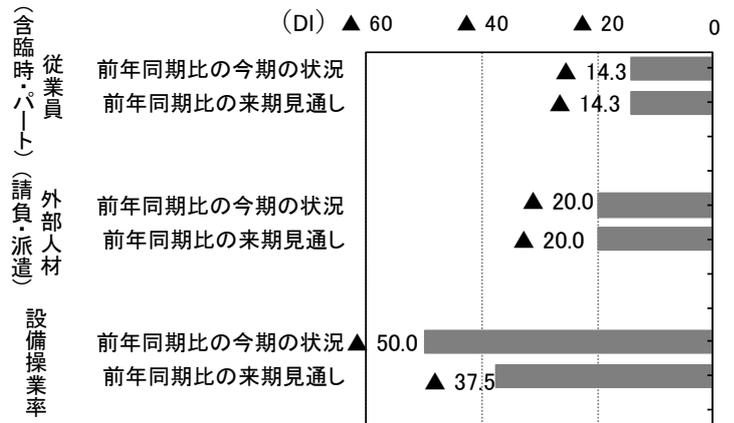


#### (5) 雇用（増加－減少）と操業率のDI

先に見た雇用水準については、過剰感が生じていることから、前年同期比で従業員、外部人材の減少が見られ、来期も減少が続くものと見込まれている。

設備の操業率については、前年同期比▲50.0で、前回調査時よりもさらに低下しており、来期見通しについても低下の流れは根強いものとみられる。

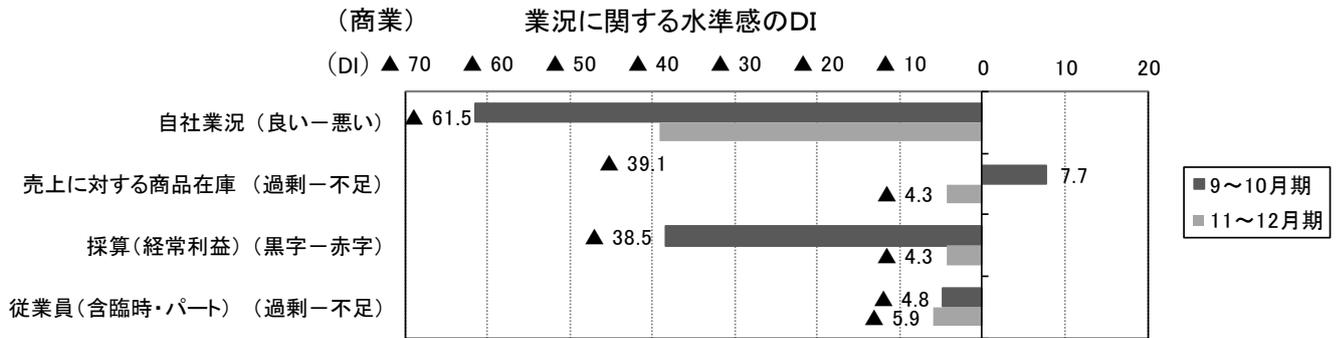
(製造業) 雇用と操業率のDI



## 商業小規模企業の景況

### (1) 業況に関する水準感 (過去との比較ではなく、今期の業績の水準についての調査)

自社業況は悪いとする割合が超過している状況は、前回調査に比してかなり改善した。売上のやや回復を受け商品回転が向上し、在庫が不足気味である他、採算（経常利益）も改善している。また、人員の不足感は、弱いながらも依然として続く。



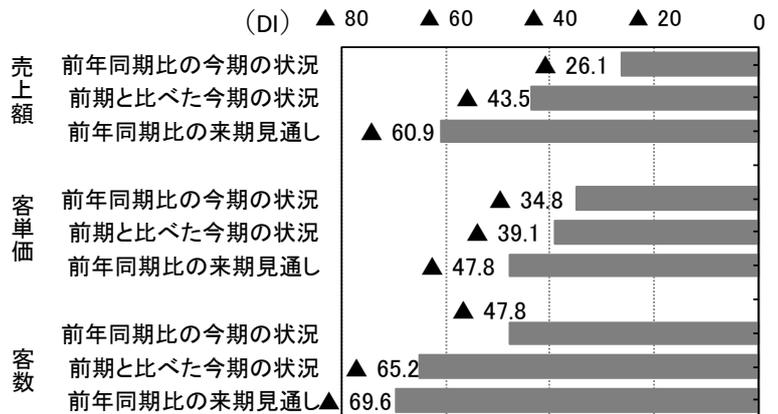
### (2) 売上のDI

今期の売上額のDIは、前年同期比▲26.1 (前回調査時▲50.0)、前期比は▲43.5 (同▲26.9) で、前回調査時との比較では、前年同期比で改善したものの、前期比では悪化し、さらに来期も悪化見込みで、足元の売上は厳しい状況にある。

客単価と客数も、対前年同期比では改善しているものの、前期比及び来期予想は悪化を見せ、足元の景況は厳しい状況。

11~12月期は、ボーナス商戦、年末商戦の時期だが、依然として消費マインドは盛り上がり欠けている。

### (商業) 売上のDI

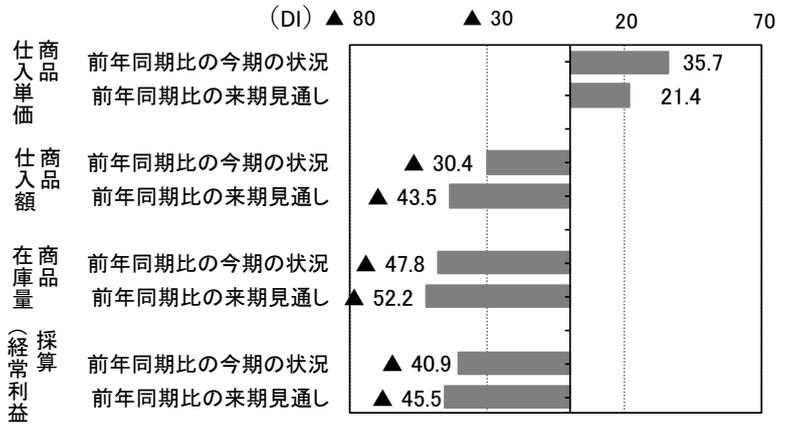


### (3) 原価と在庫のDI

今期の商品仕入単価は、前年同期比、来期見通しとも上昇がみられ、その動きは前回調査時よりも強まっている。

その中、商品の在庫量を減らす動きが強まっており、採算については依然として厳しい状況ながら若干の改善をみている。

### (商業) 原価と在庫のDI



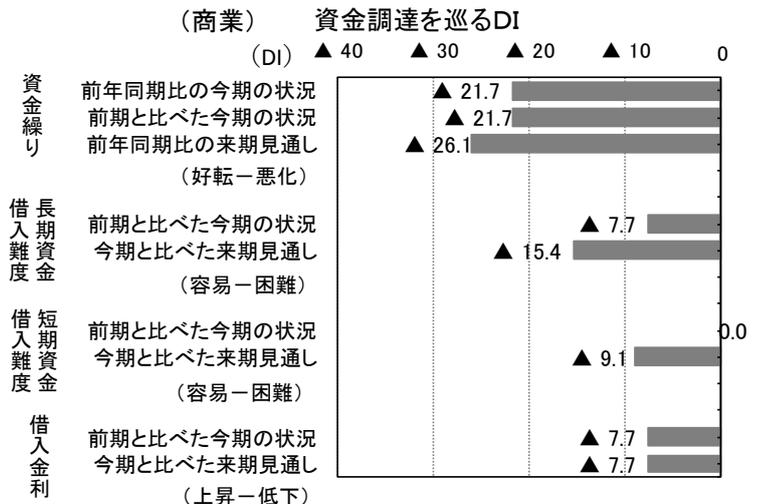
#### (4) 資金調達を巡るDI

売上額が改善し商品在庫水準も改善したものの、仕入単価上昇の強まりで採算が圧迫され資金繰りの改善は小さい。

また、借入の難度については、長期資金は前回調査と比較してやや困難化。ただ、資金の性格上頻繁に需要が起きるものではなく、個別性も強いことから、金融緩和が続く中では比較的困難度は低いと考えられる。

短期資金については、前回調査からほぼ横ばいで困難度は低い。

借入金利についてもわずかに低下が続く。

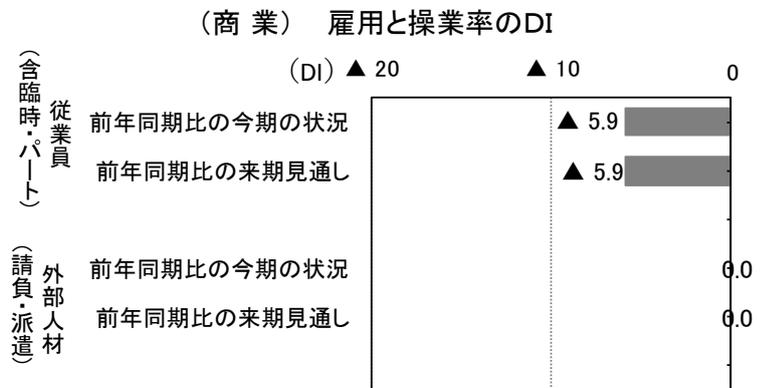


#### (5) 雇用（増加－減少）と操業率のDI

雇用水準は若干の不足感が前期より続いている。

ただ、業況の水準は依然として厳しく、仕入単価の上昇が続く中で採算の状態も不安定なことから、内部従業員は現状、来期ともやや減少の方向である。

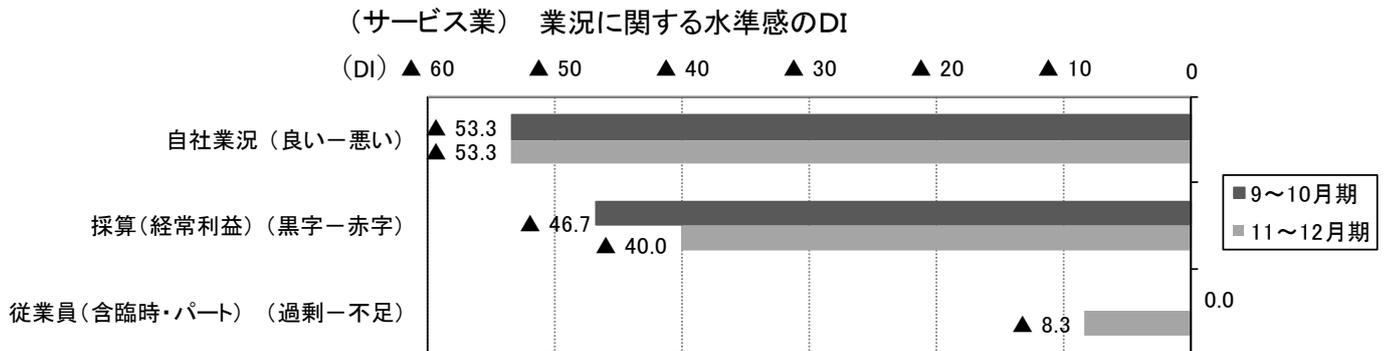
外部人材については、増減はない。



## ■ サービス業小規模企業の景況

### (1) 業況に関する水準感 (過去との比較ではなく、今期の業績の水準についての調査)

自社業況や採算は悪いとする割合が超過している状況で、前回調査からは横ばいで推移している。ただ、売上や客単価・客数に大きな変化はなく、他方、仕入単価は上昇しており、採算の方向感はまだ定まらない。また、不足気味であった人材については不足感の解消が進んだ。



### (2) 売上のDI

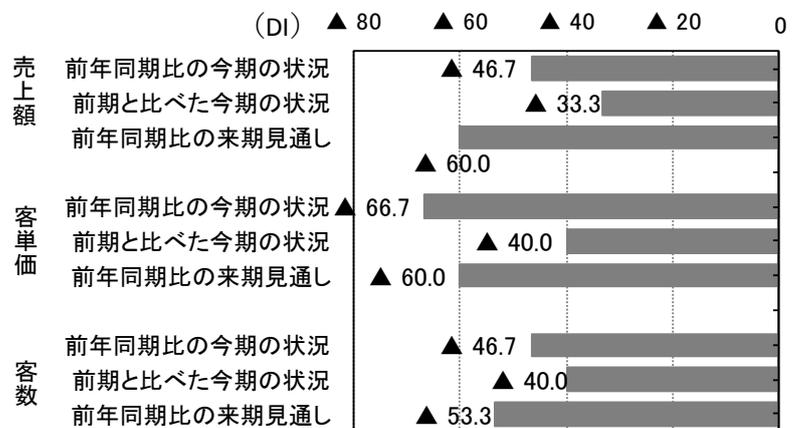
今期の売上額のDIは、前年同期比で▲46.7と前回調査時の▲53.3から改善し、前期比も▲33.3と前回調査時 (▲53.3) より改善。ただ、来期は厳しくなると予想する企業が多い。

客単価は、対前年同期比で悪化したものの客数が改善している。

前期比では客単価、客数とも小幅ながら改善の動きにあるが、来期は再び小幅悪化の予想となっている。

国内の個人消費は依然として力強さを欠いており、対個人向けサービス向けの支出も低調である。

### (サービス業) 売上のDI

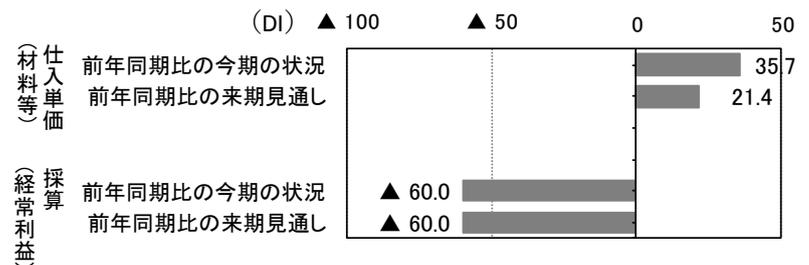


### (3) 原価と在庫のDI

材料等仕入単価は上昇傾向が見られ、前年同期比のDI (上昇-低下) は、35.7と前回調査時の40.0からやや改善した程度。

採算 (経常利益) については、前年同期比DIは▲60.0と依然として低調で、また、来期についても厳しい見通しとなっている。

### (サービス業) 原価と在庫のDI



#### (4) 資金調達を巡るDI

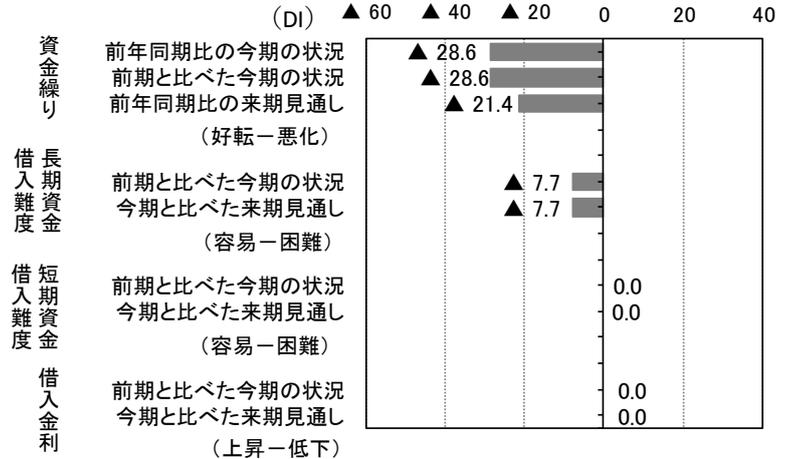
低調な業況と採算が続く中、資金繰りもきつめで、前回調査時のほぼ同水準で推移している。

借入の難度については、長期資金がやや困難化しているが、金融緩和が続く中では比較的困難度は低いと考えられる。

短期資金は容易化。ただ、仕入を伴う他業種と異なり、大きな運転資金の必要性は小さい。

借入金利については、安定的に推移している。

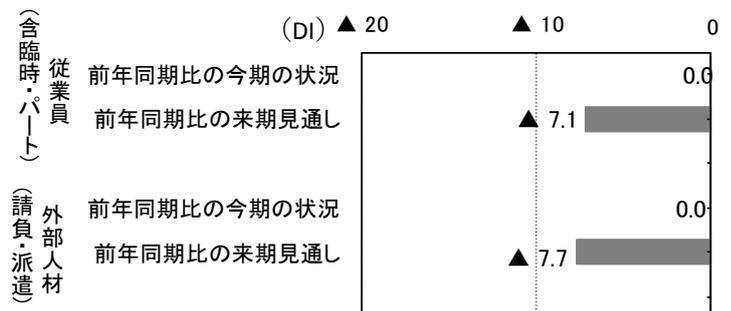
(サービス業) 資金調達を巡るDI



#### (5) 雇用 (増加-減少) と操業率のDI

雇用水準についてやや不足気味ながら過不足感には乏しい状況が続いている。ただ、業況、採算の改善が進まないことから、来期は減少の見込みである。

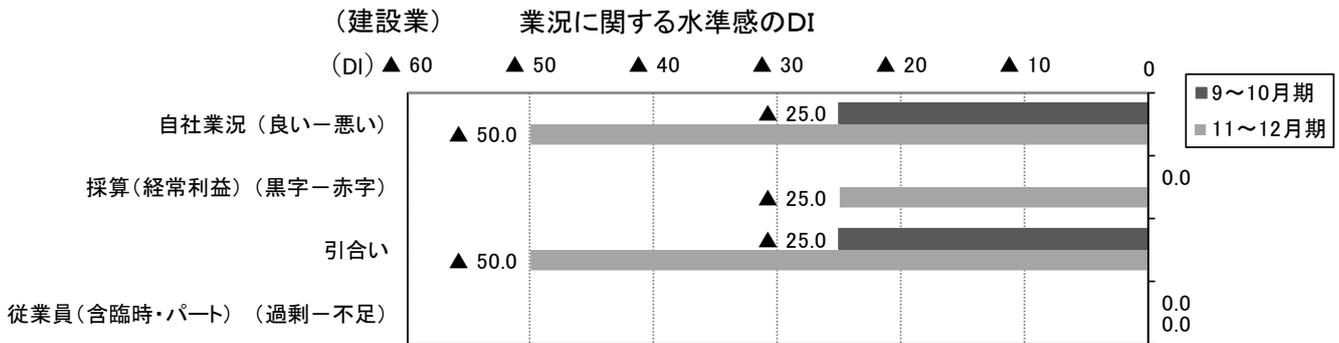
(サービス業) 雇用と操業率のDI



## ■建設業小規模企業の景況

### (1) 業況に関する水準感 (過去との比較ではなく、今期の業績の水準についての調査)

自社業況は前回調査よりも悪化した。また、引合いも低調で、前回調査よりも悪化。完成工事額が減少している上に材料等の仕入れ単価の上昇により採算(経常利益)は赤字化した。人員の不足感については現在のところ生じていない。



### (2) 売上のDI

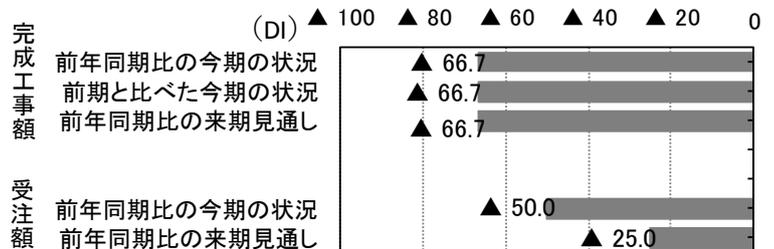
今期の完成工事額のDIは、前年同期比で▲66.7と前回調査時の0.0から大きく悪化。前期比でも、前回調査時の0.0から▲66.7となり足下でも悪化している。

受注額についても、前回調査時には対前年同期比は0.0であったが、今回は▲50.0と悪化。

来期見通しとしては、この状況もやや改善する可能性があるとして予想されている。

全国的に公共工事、住宅着工等は底堅い動きにあり、その内住宅着工は安定的に推移しているが、公共工事については月別で大きな変動も見られる。

#### (建設業) 売上のDI

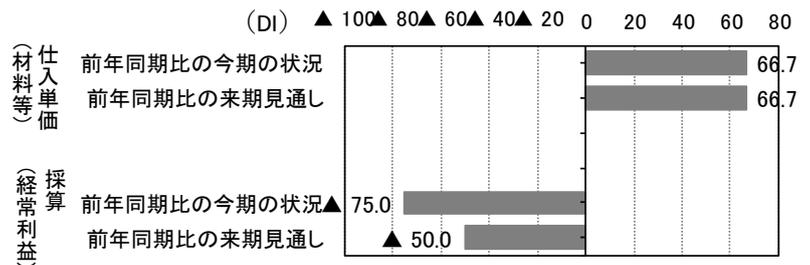


### (3) 原価と在庫のDI

今期の材料等仕入れ単価は、前年同期比のDIが25.0と上昇の動きが見られるものの、落ち着きを取り戻し高止まりの状況。来期についてもほぼ同様の動きが続く見通し。

そのため、今期、来期とも対前年同期比で採算(経常利益)は悪化傾向にある。

#### (建設業) 原価と在庫のDI

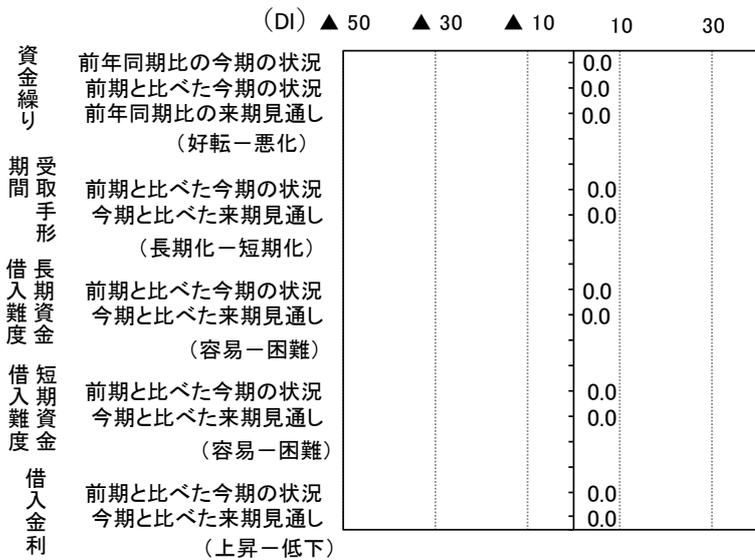


#### (4) 資金調達を巡るDI

完成工事額・売上額は減少し、業況も悪化しているが、資金負担の大きい自社主体の工事請負は多くないことから、資金繰りは安定的に推移している。来期もこの状況が続く見通しとなっている。

借入の難度については、長期資金、短期資金、借入金利ともDIは0.0で、金融の緩和政策を受けて、大きな変化はみられない。

(建設業) 資金調達を巡るDI



#### (5) 雇用(増加－減少)と操業率のDI

雇用水準については過不足なしの状況であり、前回調査時に引き続き、内部従業員の増減は無く安定的に推移している。

外部人材については、業況の厳しさや、受注の減少を受けて、今期、来期とも前年同期比で減少が見られる。

(建設業) 雇用と操業率のDI

